



なんでもインフォ

2024. 4



—観光への取り組みについて—

はじめに

近年、新型コロナウイルス感染症による水際措置のため、観光関連産業は甚大な影響を受けましたが、令和5年の規制緩和により観光客は回復傾向にあります。

岩手県盛岡市においても、昨年、ニューヨーク・タイムズが発表した「2023年に行くべき52ヶ所」に選ばれたこともあって観光客が増加し、街中では海外の方もよく見かけるようになりました。

今回のなんでもインフォでは、我が国の観光への取り組みや盛岡市の取り組みについて紹介したいと思います。

日本における観光の重要性

我が国には国内外の観光旅行者を魅了する素晴らしい「自然、気候、文化、食」が揃っており、2019年まで国内外の旅行者数は増加傾向にありました。

2020年～2022年の間、世界的な新型コロナウイルス感染拡大により観光は深刻な影響を受けましたが、日本の魅力は失われておらず、水際対策緩和後には訪日外国人旅行者は増加傾向にあり、今年3月には単月として過去最高となる300万人を突破しました。

現在、人口の減少や少子高齢化が進む中、交流人口・関係人口の拡大は地域の活力の維持・発展に不可欠となっており、ウィズコロナ・ポストコロナにおいても、観光を通じた国内外との交流人口の拡大の重要性に変わりはなく、観光は今後も成長戦略の柱、地域活性化の切り札として考えられており、国際相互理解・国際平和にも重要な役割を果たすこととなります。

盛岡市の取り組み

盛岡市でも世界から盛岡ファンを引き寄せる東北の観光交流都市を目指し、「歩いて楽しむまち盛岡」としての基盤整備や、安定した誘客の促進や滞在型観光への取り組み、教育旅行の増客やインバウンド需要の回復に向けた誘致促進等、市民が一丸となって観光地域づくりに取り組んでいくための「盛岡市観光推進計画」が立てられています。

具体的な内容としては、SNSを活用した情報発信や市内のWi-Fiやキャッシュレス環境の整備、デジタル観光マップ等の多言語化等の観光客受入態勢の計画的な整備が行われています。

また、観光地域づくりの一環として、盛岡城跡や武家屋敷の活用や、「盛岡地区かわまちづくり」として河川敷でのイベントや北上川舟運実験等が行われています。

他には、さんさ踊り等の祭りを活用した盛岡ファンづくりやプロスポーツ観戦、参加型イベントであるシティマラソンの開催等、さまざまな企画が行われています。



北上川河川敷整備状況（開運橋付近/筆者撮影）

訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移



(出典：日本政府観光局 HP より)

オーバーツーリズムによるリスク

観光客の急増は観光地に経済効果をもたらしますが、その一方で悪影響を与える「オーバーツーリズム」も問題となっています。

旅行者が観光地に集中することで起こる公共交通の混雑やゴミの散乱、騒音、自然環境の悪化、配慮を欠いた行動、観光への便利さのみ追求した開発等は、観光地に負の影響を与えることになるため、現地状況を見ながら適切な問題解決を行う必要があります。

おわりに

観光立国の実現には、一過性のブームではなく、「住んでよし、訪れてよし」の継続可能な観光地域づくりが重要となります。

観光で得られた収益を地域内で循環させ、地域の社会経済の活性化や文化・環境の保全・再生の取り組みでいくことが観光立国の実現に近づきます。

<参考とした主な資料>

- 1) 出典：国土交通省 観光庁 観光立国推進基本計画
https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku_seido/kihonkeikaku.html
- 2) 出典：盛岡市 盛岡市観光推進計画
<https://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/keikaku/sangyokei/1010008.html>

(発行) 株式会社 昭和土木設計 (岩手県紫波郡矢野町流通センター南4丁目1番23号 Tel 019-638-6834 Fax 019-638-6389)

弊社は道路・河川・橋梁等の計画・設計、BIM/CIM、i-Construction、GIS、ITソリューション等の業務を行っています。
"なんでもインフォ"のバックナンバーは <https://showacd.co.jp> をご覧ください。※掲載した画像や写真等の使用に当たっては著作権者の同意がありません。